

地 理 (Geography)		1年・通年・2単位・必修 機械工学科・ 担当 大矢 良哲
〔準学士課程(本科1－5年)学習教育目標) (1)〕	〔システム創成工学教育 プログラム学習・教育目標〕	〔JABEE 基準〕
〔講義の目的〕 歴史では時代の流れ、縦に系統的に理解するのに対し、地理では空間的なものの見方を養う。地理の授業は、学生諸君が自分で地球上の課題を追求していくことを通して、地理的なものの考え方ができるように、社会に出て役立つ地理的技能や知識を身につけることを目的としている。		
〔講義の概要〕 地理の学習でまず身につけたいのは地図の活用である。地図を使いこなすための知識・技能を学び、地形・気候など自然環境についての知識を深め、さらに世界の国々（主にアジア）の人々が、どのような生活をし、どのような課題を抱えているかについても考えてみる。		
〔履修上の留意点〕 必ずしも教科書通りに講義を進めるわけではないが、教科書をこえた内容で効果的な学習ができるようにする。そのため各自が、常に講義内容の把握・理解に心がけ、積極的に参加する姿勢が大切である。下記の講義内容に教科書の関係部分を示しているのので、参看しておくこと。地図帳は毎回持参すること。また、地形図・配布資料の実習では色鉛筆（またはボールペン）を使用することがある。		
〔到達目標〕 地理の基礎を理解し、地理的な思考方法を身につける。		
〔評価方法〕 以下の3つの項目で成績評価を行う。 定期試験 80%…前期中間・前期末・後期中間・学年末の各試験の成績 レポート 10%…課題を提出させ、定期試験と同等に評価する。 受講態度 5%、出席状況 5% ◎ 課題は提出期限や条件を厳守した方が有利に評価される。		
〔教科書〕 ①「新詳地理B」初訂版、帝国書院。 ②「新詳高等地図」初訂版、帝国書院。 〔補助教材〕 ①1:25,000 地形図「大和郡山」国土地理院発行。 ②配布プリント教材。 ③ビデオ教材。 ◎ 地形図はできるだけ折り曲げないで、最初の講義に持参すること（折り方を学習します）		
〔関連科目・学習指針〕 本教科は歴史（2年・3年）・政治経済（3年）等の科目に関連する。		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	世界像の変遷	時代と共に変化する様々な世界観と、それらを表現する地図の歴史を理解する。	
第2週	地図の歴史（日本）	日本の地図の歴史を概観し、「伊能図」を具体事例に地図の読み方を理解する。	
第3週	地図の基本	地形図の見方を理解する。	
第4週	地形図の読図1	地図を描き、地理的技能や知識を学習し、身につける。	
第5週	地形図の読図2	同上。	
第6週	地形図の読図3	同上。	
第7週	地形図の読図4 大和郡山（臨地研究）	学校周辺の野外巡検を行う。	
第8週	内的営力による地形	世界の大地形の起伏のしくみを考える。	
第9週	地震と災害	日本の地体構造や地形、自然災害について理解する。	
第10週	近畿の活断層	近畿の主な活断層について理解する。	
第11週	外的営力による地形	外的営力と地形の関係について考察する。	
第12週	気候と気候要素	気候についての基礎的知識を理解する。	
第13週	世界の気候区分1	世界の気候区や土壌帯、植生の特色について理解する。	
第14週	世界の気候区分2	同上。	
第15週	植生と土壌	同上。	
第16週	世界の農業	世界の農業地域を区分・分類し、自然的・社会的条件との関係を考察する。	
第17週	日本の農業、世界と日本の水産業	日本の農業の特色を世界の農業との比較を通して考える。水産業の現状も理解する。	
第18週	エネルギー・鉱産資源の問題	世界のエネルギー・鉱産資源の分布や生産・消費について、その特色と問題点を理解する。	
第19週	工業の発達と変化	工業の特色・立地等について考察する。	
第20週	世界の工業地域	世界各地の工業生産の様子を見る。	
第21週	現代世界の工業の現状と日本	世界の工業の変化と日本の変化を考察する。	
第22週	朝鮮半島	韓国の自然や民族・文化について、日本との比較を通して、特色を理解する。	
第23週	朝鮮半島	韓国の経済発展に伴う産業の変化、人々の生活の変化について考える。	
第24週	中国	中国の人々の生活や政治・経済について、その特色を考える。	
第25週	中国	中国における生活の変化、今後の課題について考える。	
第26週	東南アジア	東南アジアの民族や文化、農業について、その特色を理解する。	
第27週	東南アジア	ASEAN諸国の経済発展と課題について考える。	
第28週	西アジア・中央アジア	国境を越えて広がる自然環境、イスラム教を通じた民族の交流や文化について考える。	
第29週	民族・領土問題	世界の民族・領土問題の要因について。	
第30週	まとめ		

* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。
 （達成） （達成） （達成） （達成） （達成）

地 理 (Geography)		1年・通年・2単位・必修 電気, 情報, 物質化学工学科 担当 ^{かど} ^{かつあき} 角 克明
〔準学士課程(本科 1-5年) 学習教育目標〕 (1)	〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕	〔JABEE 基準〕
〔講義の目的〕 私たちが生活している地表ではさまざまな人間活動が営まれ、壮大な自然環境がこれを覆っている。この科目では自然環境や人間活動のしくみを理解し、地理的な視点を養い、現代社会に生きてゆくために必要な地理的知識を身につけてゆきたい。		
〔講義の概要〕 地表にはさまざまな地理的な現象がみられ、諸問題も存在する。これらをテーマ別に概説したうえで、その発生原因を究明し、できれば対応策・解決策を考えてみたい。そのため、必要となる地理的な視点・考え方、場合によっては技術的な手法についても学習したい。同時に、いろいろな「地理的発見」を導き出してゆく。諸君の積極的な参加が求められる。		
〔履修上の留意点〕 必ずしも教科書のページ順に講義を進めてゆくわけではなく、教科書をこえた内容にもせまる(教科書記載内容がすべてであるという「教科書神話」は通用しない)。そのため、講義内容の把握・理解には当然のこととはいえ、常に心がけておくこと(お互いの学習環境にも配慮しよう)。地図帳・地形図は基本的に毎回持参すること。講義には積極的に参加する姿勢が大切で、とくに地理実習・課題などではこのことが大きく影響する。なお、色鉛筆(12色程度)と定規(目盛りつき)を使用する日があるので、準備してほしい(いままで使用していたものでよい)。期日は別に指示する。		
〔到達目標〕 前期中間・期末試験 後期中間・学年末試験 ：講義内容(基本的な地理的事象・現象)の理解。 ※つぎの点も各自の自己評価のもとで到達目標とする。①基本的に毎週の講義の最初に紹介する「最新の地事情(地理的話題)」(講義項目・内容には未記載)、②夏休みレポート、③地理実習などを通して、地理的な基礎を理解し地理的思考力を習得するとともに、地理的情報をさまざまなかたちで表現できるようにしたい(一部は担当者の評価対象である)。		
〔評価方法〕 定期試験・70%、地理実習などの課題(講義へのとり組みを含む)・30%を基本とし、総合評価する。また、他人の学習環境をみだす行為(私語など)には厳正に対処し、改善されないときは成績に反映させる。なお、提出を求められた課題は正確・ていねいに完成させ、必ず自主的に提出すること(提出期日や条件などの厳守が有利にはたらく)。とくに、夏休みレポートと地理実習(3)は評価が高い。詳細はオリエンテーションで通達する(定期試験答案返却時にも詳細を報告する予定である)。		
〔教科書〕 ①『新詳地理B』初訂版、帝国書院。 ②『新詳高等地図』初訂版、帝国書院。 〔補助教材・参考書〕 ①1：25000地形図「大和郡山」、国土地理院発行。 ②配付資料(適時配付する)。 ※地形図はできるだけ折り曲げないで、最初の講義に持参すること(折り方を学習する)。 ※先輩たちによる『発見の記録』ほか(図書館所蔵)を夏休みまでに閲覧しておくこと。		
〔関連科目〕 歴史は時間的な流れを対象にするが、地理は空間的な広がりを見る。この空間は時間の経過とともにたえず変化しているので、両者を完全に区別して考えることはできない。したがって、2年次以降の歴史と関連させて学習する必要がある。自然環境に関する分野では地学を中心とする理科の分野と関連する。なお、地理的なしくみや考え方(法則性)は専門分野でのオリジナルな発想へのヒントとなる可能性をもつ。		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	オリエンテーション	この科目に関するオリエンテーション。	
第2週	地形図(1)	1:25000地形図を中心とした地形図の基礎を学習。	
第3週	地形図(2)	地形図内容を正確に読みとる技能の習得。	
第4週	地形図(3)	地形図の応用分野への接近。	
第5週	さまざまな地図	各種図法によって描かれた世界図の特色を説明。	
第6週	地理実習(1)	統計数値データの地図化。	
第7週	地域調査	地域調査法の習得。	
第8週	世界地誌(1)	西アジア・中央アジア地域を通して見た異文化世界の理解(夏休み中に世界地誌をテーマとする「夏休みレポート」を実施予定)。	
第9週	世界地誌(2)		
第10週	世界地誌(3)		
第11週	世界地誌(4)		
第12週	世界の自然環境(1)	地球規模で地形が形成されるしくみを理解し、「大地形」区分による地形を把握する。そのうえで、「小地形」区分で世界のさまざまな地形について概説する。身近な地域で見られる地形にもふれ、われわれの生活の舞台に存在する地形についても学習する。	
第13週	世界の自然環境(2)		
第14週	世界の自然環境(3)		
第15週	世界の自然環境(4)		
前期期末試験			
第16週	地理実習(2)	統計数値データ以外の地理的情報から主題図を作成。	
第17週	世界の自然環境(5)	地球規模で地形が形成されるしくみを理解し、「大地形」区分による地形を把握する。そのうえで、「小地形」区分で世界のさまざまな地形について概説する。身近な地域で見られる地形にもふれ、われわれの生活の舞台に存在する地形についても学習する。	
第18週	世界の自然環境(6)		
第19週	世界の自然環境(7)		
第20週	村落と都市(1)	われわれが居住する「集落」を「村落」と「都市」にわけて、地理的特色を見出してゆく。	
第21週	村落と都市(2)		
第22週	村落と都市(3)		
第23週	村落と都市(4)		
第24週	都市問題(1)	先進国における都市問題の概説。	
第25週	都市問題(2)	発展途上国における都市問題の概説。	
第26週	都市問題(3)	先進国と発展途上国における都市問題の類似点と相違点。	
第27週	余暇活動の地域性	余暇活動の実態とその地域性の把握。	
第28週	世界地誌 応用編	『地理報告』第14輯(夏休みレポート集成)の作成とその評価。	
第29週	地理実習(3)	都道府県レベルにおける日本地誌の把握と地理的発見。	
第30週	まとめ	総まとめ。	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった。
(達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

地理 (Geography)		1年・通年・2単位・必修 電子制御工学科・担当 三浦 隆宏
〔準学士課程(本科1-5年) 学習教育目標 (1)〕	〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕	〔JABEE 基準〕
<p>〔講義の目的〕</p> <p>グローバル化が進展する現代において諸外国の情勢を知ることが不可欠である。ことに将来技術者をめざすみなさんにとって、諸外国の地理的状況、気候、風土などについての知識は、技術を移転するにあたり非常に重要な要素になると思われる。そこでこの講義では、さまざまな国や諸地域の地理的知識を身につけることを目的としている。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>地理の学習では、地図の活用が最も重要である。地図を使いこなすための知識・技能を学び、また、地図の歴史も振り返ってみたい。そのうえで、地形・気候など自然環境についての知識を深め、さらに世界の国々（主にアジア）の人々がどのような生活をし、どのような課題を抱えているかについても考えたい。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>必ずしも教科書の内容すべてに触れるわけではないが、時事問題も紹介しつつ、効果的な勉強ができるように配慮する。地図帳は教科書とともに毎回持参し、様々な情報について自ら調べるようにしてください。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地理についての基本的知識を身につける ・地理が人間の生活とどのように関わっているかを理解する。 ・現代の地球規模での問題を地理の観点から理解する。 		
<p>〔評価方法〕</p> <p>以下の3つの項目で成績評価を行なう。</p> <p>定期試験 80 %… 前期中間・前期末・後期中間・学年末の各試験の成績 レポート 10 %… 課題を提出する。その課題は定期試験と同等に評価する。 受講態度 10%</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>① 「新詳地理B」初訂版、帝国書院。② 「新詳高等地図」初訂版、帝国書院。</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>① 1:25,000 地形図「大和郡山」国土地理院発行。 ② 配付プリント教材。 ③ ビデオ教材。 ◎ 地形図はできるだけ折り曲げないで、最初の講義に持参すること（折り方を学習する）</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>本教科は歴史（2年・3年）・政治経済（3年）等の科目に関連する。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	導入- 地理と文化	地理を学習する意義。	
第2週	地図の歴史 (世界)	世界観を表現する地図の歴史を古代から中世にかけて理解する。	
第3週	地図の歴史 (日本)	日本の地図の歴史を概観し、「伊能図」を具体事例に地図の読み方を理解する。	
第4週	地形図の読図1	地図記号・等高線・土地利用について	
第5週	地形図の読図2	同上	
第6週	内的営力による地形	プレートテクトニクス理論に基づき、世界の大地形のしくみを理解する。	
第7週	外的営力による地形	外的営力と地形の関係について考察する。	
第8週	世界の気候1	世界の気候区分について理解する。	
第9週	世界の気候2	同上	
第10週	日本の気候と自然災害	日本の自然の特徴や自然災害について理解する。	
第11週	産業の発達と変化	産業の発達とグローバル化についての基本知識を習得する	
第12週	世界の農業1	気候と農業の関係を理解する	
第13週	世界の農業2	現代の企業的農業についてとその問題点を理解する。	
第14週	日本の農業	日本の食糧自給率とその問題点について理解する。	
第15週	世界と日本の水産業	水産業の現状を知り、その問題点を理解する。	
前期期末試験			
第16週	資源の生産と消費	世界のエネルギー資源の分布や生産について、その特徴を理解する。	
第17週	日本のエネルギー問題	日本のエネルギー問題の現状を考察する。	
第18週	世界の工業地域	工業の特色・立地等について考察する。新興工業国にいての知識を得る。	
第19週	産業の空洞化と知識産業	現代社会における産業のあり方について考察する。	
第20週	地理と文化1	地理や気候が文化の形成にどのような影響を与えるか考察する	
第21週	地理と文化2	グローバル化する社会における文化の画一化について考察する。	
第22週	朝鮮半島	韓国の自然や文化について、日本との比較を通して、特色を理解する。	
第23週	朝鮮半島	韓国の経済発展に伴う産業の変化、人々の生活の変化について考える。	
第24週	中国	中国の人々の生活や政治・経済について、その特色を考える。	
第25週	中国	中国における生活の変化、今後の課題について考える。	
第26週	東南アジア	東南アジアの民族や文化、農業について、その特色を理解する。	
第27週	東南アジア	A S E A N 諸国の経済発展と課題について考える。	
第28週	南北問題と開発	南北問題についての基本的な知識を習得する。	
第29週	食糧問題と貧困	アフリカや東南アジアで生じている食糧問題について考察する。	
第30週	都市と環境問題	都市の環境問題を考察し、その解決方法を考える。	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
(達成) (達成) (達成) (達成) (達成)